

### 1. 授業のねらい・概要

企業にとっての金融活動（資金調達、利益配当、買収・合併など）について研究するコーポレートファイナンスの基本的な考え方を説明する。できるだけ実際に起きた事例を挙げながら一般的な基礎理論をできるだけ平易に説明する。

### 2. 授業の進め方

第1回～第3回では、資金需要と資金調達の形態について説明する。第4回～第5回では、財務諸表の見方について説明し、第6回～第9回では金融機関からの借入金について説明する。そして、第10回～第12回では社債に関する事項を説明し、第13回～第14回では株式に関する事項を説明する。

テキストの内容に沿った説明を基本とするが、随時、新聞・雑誌の記事から具体的な出来事を取り上げて実践的な説明も行う。最後の第15回では、まとめと復習を行う。

### 3. 授業計画

|                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 企業金融とは何か             | 9. 借入金（4）（保証）        |
| 2. 企業の資金需要              | 10. 社債（1）（社債の種類）     |
| 3. 資金調達の形態              | 11. 社債（2）（公募債と私募債）   |
| 4. 財務諸表の見方              | 12. 社債（3）（格付け）       |
| 5. キャッシュフロー             | 13. 株式（1）（株式による資金調達） |
| 6. 借入金（1）（借入れの種類と返済方法）  | 14. 株式（2）（企業の合併・買収）  |
| 7. 借入金（2）（借入金利とメインバンク制） | 15. まとめと復習           |
| 8. 借入金（3）（担保）           |                      |

### 4. 到達目標

企業にとっての金融活動の意義を理解してもらうとともに、企業における金融活動に関する意思決定方法の基本を習得してもらうことを到達目標とする。

### 5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を必ず復習して、疑問点などを明確にしておくことが望ましい。

### 6. 成績評価の方法・基準

①授業への取り組み姿勢（評価に占める割合：30%）、②課題等に対する内容（評価に占める割合：20%）、③定期試験の結果（評価に占める割合：50%）によって、評価する。

### 7. テキスト・参考文献

テキストは、授業開始時まで指定するので毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

### 8. 受講上の留意事項

受講の要件としては、金融・ファイナンスの基礎知識があることが望ましいが、そうでない場合も、理解できるように説明する。疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。